

社会科学学習指導案

生徒 第3学年C組 男子17名 女子17名 計34名
指導者 教諭 郡司直孝

I 単元 公民的分野『(1) 私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方や考え方』

II 単元の目標

人間は本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えるとともに、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解することができる。

III 単元について

本単元では、社会生活における物事の決定の仕方、決まりの意義を考えさせることを通して、現代社会をとらえるための概念的枠組みの基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを理解させることを内容としている。

本時は本単元の最終時として、きまりの妥当性を判断するための「効率」と「公正」という考え方や、きまりの役割や目的、様々な決定や採決の仕方、きまりの変更などに関する前時までの学習内容を踏まえて、単元を貫く学習課題として追究し続けてきた「本校教員が出席して開かれた職員会議で策定された『生徒は学校内において、携帯電話やスマートフォンを所持・使用することができる』というきまりに賛成か、条件付賛成か、反対か？」を改めて考察する学習活動を展開する。

IV 生徒の実態について

社会科に対する学習意欲は高く、個別事象に対する基礎的・基本的な知識を習得している生徒が多い。また、ディスカッションや協働学習に対して意欲的に取り組む様子が見られ、他者の意見や考えを踏まえて自己の課題追究に生かそうとすることができる。しかし、学校生活でのきまりに関して生徒自らが決定・採決に参画した経験がないため、きまりとは他者（おもに成年者）が制定し与えられるものという意識が強く、きまりの制定・改廃に積極的に関わろうとする資質や能力は育っていない。また、用語に関する一定の理解はあるものの、それが具体的な日常生活の場面で有する意味を理解できていない生徒が多い。

V 単元の評価規準

○社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【社会的な思考・判断・表現】	○社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義に対する関心を高め、それらを意欲的に追究している。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
○社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 【資料活用の技能】	
○社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義と、現代社会を捉える見方と考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などについて理解し、その知識を身に付けている。 【社会的事象についての知識・理解】	

VI 指導計画（4時間扱い……本時4／4）

学習内容	指導内容	時間	評価			
			関	思	技	知
○社会集団の中で生きる私たち ○効率と公正	○人間という社会的存在が属する社会集団における、考え・欲求・意見の違いによって生じる対立や合意への努力、効率と公正の考え方による解決について考えさせる。	1		○		○
○きまりをつくる目的と方法	○きまりの意義やその内容としての権利・義務・責任および社会集団のちがいによる決定・採決のしかたについて考えさせる。	1			○	
○きまりの評価と見直し	○評価に基づいたきまりの変更や見直しについて考えさせる。	1			○	○
○単元のまとめ	○現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などを踏まえて単元を貫く学習課題を追究させる。	1 (本時)	○	○		

VII 本時案

- 1 題材 「単元のまとめ」
- 2 学習目標
 - ・社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義に対する関心を高め、それらを意欲的に追究している。【社会的事象への関心・意欲・態度】
 - ・定められたきまりに対して、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】
- 3 学習の展開

○学習活動	○教師の指導及び指導上の留意点	◇評価規準
○本単元における第1時から第3時までの学習内容を想起す	○プレゼンテーションソフトや第1時から第3時までのワークシートを利用し、想起を促す。	
<p>本校教員が出席して開かれた職員会議で策定された「生徒は学校内において、携帯電話やスマートフォンを所持・使用することができる」というきまりに賛成か、条件付賛成か、反対か？（単元を貫く学習課題）</p>		
○「単元を貫く学習課題」に対するこれまでの自分の考えを踏まえて、改めて自分の考えとその理由を明らかにする。	○机間指導を行い、これまでの自分の考えや考え方としての「効率」と「公正」を踏まえた記述となっているかを確認する。また、記述できてない生徒に対する助言を行う。	
○様々な考えや理由を持つ者と互いの考えを説明し合うと共に、批評し合う。	○初めは自分の座席近くの者と活動させるが、その後は教室内での移動を認めより広く交流させる。 ○交流の状況を把握し、特定の意見への偏りや議論の停滞が見られた場合、異なる考え方等を全体に提示する。	
○他者との交流を踏まえて、単元を貫く学習課題に対する自分の考えとその理由を説明する。	○これまでの学習内容と本時での学習内容を踏まえて記述させる。 ○前時まで記述してきた自分の立場や理由からの変容に注目させたい。 ◇定められたきまりの妥当性について、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、自分の考えやその理由を適切に表現している。 【社会的な思考・判断・表現】 ◇きまりに対する関心を高め、その妥当性について意欲的に追究している。【社会的事象への関心・意欲・態度】	

